

【令和7年度 第1回大山町総合教育会議】 議事録

日時 : 令和7年4月28日(月) 午前9時30分～
場所 : 名和公民館 第1会議室
出席委員 : 門脇明子、髙山洋美、山本健一
欠席委員 : 向陽寛孝
町長 : 竹口大紀
副町長 : 吉尾啓介
教育長 : 鷺見寛幸
その他の出席者 : 教育次長(浦木)、幼児・学校教育課長(井上)、社会教育課長(西尾)、
幼児・学校教育課 参事(鷺見) 幼児・学校教育課 担当者(中井)

参観人 : 6人

【教育長】

令和7年度、第1回大山町総合教育会議を始めさせていただきます。

【町長】

今日は、本年度、第1回となります大山町総合教育会議ということで、お集まりを頂きありがとうございます。今日のテーマですが、ざっくりとしたところをお話ししたいと思います。大山町教育委員会の社会教育課が持っておりまして、公民館の在り方について、今まで教育委員の皆様と、いろいろ意見交換をしながら、協議を進めてきたところではありますが、その中でも、公民館は社会教育の一部分にとどまるのではなく、町全体の施策として、まちづくりともっと連携をさせることで、住民の皆さんにとって、必要不可欠な位置づけにしていこうということで、公民館の所管を社会教育課から、まちづくり課に変えたということが過去にございました。その中の議論として、その他のスポーツ、図書、それ以外に社会教育に関わる社会教育課が所管している分野をどうするのかといったところがあります。公民館の議論の中で、それらを全部複合的にやっていくというのは、議論の収集をつけるのが難しいということで、まずは先行して、公民館と地域づくりの一体化ということで進めてきておりますが、残ったそれ以外のスポーツ生涯学習等、様々な機能がありますが、それらをどうしていくのかといったところを、皆さんと意見交換をしながら、今後の方向性を出していければと思って本日の総合教育会議を招集したところでございます。その他、教育委員の皆様方から何か課題等ありましたら、ぜひ、お聞きしたいと思っております。限られた時間ではありますが、本日の総合教育会議で意見交換を通じて、今年度以降もさらに大山町のエデュケーション行政、また、町政

が発展できるように努めていきたいと思っております。重ねてよろしくお願い申し上げます。まして、開会のご挨拶とさせていただきます。

【教育長】

令和7年度、新年度が始まりまして、学校も新体制で動き始めております。先週は3中学校が修学旅行ということで、どの学校も、今年は万博に行って無事帰ってまいりました。学校、保育所も含めていろいろな課題もありながら、その課題解決に向けて進んでいかないといけないというようなところでございます。今日の議題としては生涯教育、スポーツ振興というようなところですが、先ほどの定例教育委員会でも申し上げましたが、老人クラブの総会に私も行き話をしましたが、高齢者の皆様方は、学習意欲が高いなというふうに思います。また、今年は3公民館合同でスポーツ交流を、まちづくり課でされるということで、全町にスポーツの交流ができる機会が増やされるということで、子どもから高齢者の方まで生き生きと、生活していく大山町を目指すには、これからの生涯教育の在り方、またスポーツ振興の在り方ということを時代に合わせたやり方で進めていかないといけないと考えております。皆様方の忌憚のないご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。会議時間は12時までとなります。

日程第2

(1) 生涯教育、スポーツ振興、文化活動のあり方について

【教育長】

生涯教育、スポーツ振興、文化活動の在り方についてということで、町長さんからお話をお願いいたします。

【町長】

生涯教育、スポーツ振興、文化活動の在り方についてということで、再度説明させていただきます。国のほうでも法律が見直されまして、教育委員会部局でなくとも、町長部局でもって町全体の施策としてやっていくという道が開かれております。大山町では早くから文化財室を今まで社会教育課でしたが、国が文化財を保護するだけではなく、活用にかじを切っていくということで法改正がなされ、大山町は法改正を受け、県内でも早い段階で文化財室を観光と一体化して文化財活用にもっと取り組みを進めていこうということでやっていました。さらには、公民館のあり方として、公民館を地域とコミュニティーセンターという位置付けから考えても、もう少し、まちづくり、地域づくりと一体的にやっていく、町全体の施策としてやっていくほうが、より地域のためになるんじゃないかという議論が、公民館の所管課を教育委員会から町長部局に移した経緯があります。そのうえで、生涯教育、スポーツ振興、文化活動のありかたにつ

いて、教育委員会が所管をしていくメリットもありますし、町長部局に所管を移すことによる全体のメリットもあると思います。皆さんからメリット、デメリットをいただきながら、議論を続けていければと思っています。何もないところで議論しても、やりにくいと思いますので、想定しているたたき台のスケジュール感といいますか、この議論をどう収束させていくのかは、今年度は、まだ始まったばかりですので、今年度1年間しっかり時間をかけながら、皆さんとの意見交換をキックオフとして、担当課内部でも検討を進め、1年間時間をかけて、どのような事務分掌、どういう事業をどこで所管するのがいいのかというところの検討を進めていく。それによって、来年度、新たな体制で動き出せたらいいのかなという、私の頭の中ですけれども、たたき台としてのスケジュール感を持っているところです。また、そういったところも、ぜひ、ご意見を頂きながら進めていければというふうに思っております。特に、公民館、まちづくり、地域づくりを一体とし、公民館全体の在り方の検討を進めているところです。公民館の拠点施設となりうるものをどう整理し、サテライトをどういうふうに位置づけて、どう整理するのもかも並行して議論しておりますけれども、公民館という箱だけを、その地域に配置すれば完成ということではなく、その中には、やはり社会教育や、もっと細かく言えば、スポーツ活動や文化活動等の様々な機能ソフト事業がその中に入っている。それによって地域に広がりが出ていく。そういうようなことをイメージしております。ぜひとも、この公民館、地域づくりの議論と並行して、教育委員会と役場内部の事務分掌の話ですが、どの所管でやったら、より効果が出るのかといったところを、並行して議論ができればというふうに考えているところです。そういったところを踏まえて皆さんから御意見を頂ければ、ありがたいと思います。

【教育長】

ただいま、町長から話がありましたが、委員の皆さん方から、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

【委員】

6年前に文化財室が観光課に管轄が変わりました。この5、6年みていたのですけれども、以前よりも活動が表立って見られない。例えば、以前は大山学の勉強会で、町民でその地区の事を知ろうみたいなことを教育委員会でやっていただいていたんですが、観光課になって、私が住民として思ったのは、伝建地区の案内版が欲しいと思っていましたが、今だに、きちんとしたものが出来ていません。大山口の駅舎が新しくなった時に、前の案内版が撤去されました。大山めぐみの里の道の駅にあるようなものを縮小されたものでも、あるいは縮小版でも欲しいという意見をお伝えしていますが、観光協会の仕事だとか、デザイナーが見つからないと言われ、もう6年ぐらい看板が無いままです。設置場所もJRの関係とか言われて、私も当時の課長さんに言いに行きましたが、

一向に進んでいません。J Rを使って伝建地区を目指してこられる方は、携帯で調べて来られますが、駅に一つも看板がないのは、おかしいですねと口々に言われます。観光商工課になって期待していましたが、観光には繋がっていません。文化財室の方は一生懸命、きめ細やかに、寄り添ってやったださっていますが、観光課全体として動きがないと所子の住民として感じています。一歩進んで、観光的に県外の方や、場所が分からない方のために案内版があればいいと思います。

【町長】

看板については、進捗は確認しておきたいと思います。恐らく関係者の方のいろいろな意見があって、一つの答えにたどりついていないのかなと思います。役場の思いだけで作ればいいという感じではないと思います。伝建の部分に関して、観光商工課に文化財室が動いてからの動きとしては、あります。今まで、仮設トイレだけで対応してきたものをどうにかしないといけないという観光の視点で公衆トイレの整備にすぐに着手をしました。伝建の風景にあった公衆トイレ整備をしておりますし、その他、景観整備ということで舗装もアスファルト舗装から、農村で伝建に指定されているのは珍しいのでアスファルト舗装はどうなのかということで舗装をやり変えられないかという話を進めさせてもらっているところです。また、電柱もばんばん立っていますから、地中化に向けた話というものを観光課になってから議論を進めているところです。伝建地区の中でも、いろいろ伝建を整備していくのに関して、賛成の方もあれば、外からどんどん人が来てもらったら困るというようなご意見があるので、なかなか1枚岩で進んでない現状でして、案内看板1つとりましても、どんどん来てもらったら困るというようなご意見の方たちが、数的には半分近くがおられると認識をしております。その話がまとまらない上で、案内看板だけ作っていくのは難しいかなというのが、今、担当課の考えです。それ以外の部分での雰囲気づくりとして、昨年、カーブミラーを茶色に変えたりと、できるところからやっていますが、それは、観光の視点を入れながら、させていただいています。その他の所でも、大山寺の旧境内のあたりの整備も具体的に進んでいるところです。また、ガイダンス施設がないということで、ガイダンス施設の整備をやっていこうというのも、文化財の保護という視点でなく観光活用の視点で今進んできております。大山寺エリアでは橋を渡った西側のエリアの整備がほとんどできませんでしたので、観光客の招集という視点を持ちながら、登山口入り口も整備しているということで、観光の視点を持った文化財活用というものが進んでいると思っております。個別案件は、確認をして対応していきたいと思います。

【委員】

トイレについては、立派なトイレができてありがたないと思います。先日もインバウンドで何十人とアメリカの方が来られましたので、インバウンド対策も必要なのかなと

思いました。需要が増えたら英語表記の物も作ってもらわないといけないのかなと思います。トイレとカーブミラーと消火栓はありがたかったです。

【教育長】

去年、テメキュラ交流 30 周年ということで、テメキュラ市長が我が家に 5 日間ホームステイされ松江やいろいろなところに出かけましたが、5 日間の滞在で 1 番心に残った場所は門脇家住宅と言われていました。大山町の素晴らしさを知ることができたことや、門脇家住宅の文化財というものが素晴らしかったと言われていました。インバウンドでいろんな方々来られると思いますが、大山町の宝としてこれからも保存活用されることを私も願っております。

【委員】

私たちも次世代に繋げないといけない年齢になってきて、娘達が、文化財室からの提案で日本ナショナルトラストという公益財団から伝建地区全体の今後の活性化のために、伴走して支援をするというのに採択され、今年から 3 年間で年間 200 万の予算で、アドバイザーを 3 人ぐらい派遣してくださり伝建地区で何をしたらいいかの取り組みを始めています。勉強会の機会には所子地区の全体に声をかけて、かじ取り役というか、何もしない伝建というのに 10 年間物足りなさを感じて、整備をしていただいても、もう少し活気があることをしたいっていう意見がありますので、3 年間はそれをやってみようかなと思います。

【教育長】

御意見ありがとうございます。生涯教育、スポーツ振興、文化活動の在り方についてご意見がありましたらお願いします。

【委員】

私は今日、この議題を見させてもらって、この生涯教育スポーツ振興文化活動が、教育委員会から万が一、町長部局に、移ることになった場合に働かれる方や参加される方に、どのようなメリット、デメリットがあるのか全然イメージが湧かないのでどうかなという質問です。

【町長】

はっきり言うと、よく分からないというのは正直なところだと思うのですが、今まで教育委員会事務局から、いろいろなものを移してきました。まだ、法改正で町長部局に移してもいいですよというものがある中で、このまま教育委員会が良いという意見もあれば、全体政策として、町全体の取組として町長部局でやった方がいいじゃないかと、い

ろいろな考えがあると思いますが、それを、1年かけて議論して、メリット、デメリットや、例えばこれを町長部局に移したらこうなりますよというのを、事務局で話し合ってもらって材料を出してもらってから、それについて動いてもらう。そういうプロセスでやっていってもいいですか。というのが今日の発言の本質で、今、私も、これが変わったらメリットです。というものも当然持ち合わせておりませんし、それぞれ誰もがメリット、デメリットというのはおありだと思うんですが、それらをしっかり事務方のほうで協議をして煮詰めていって、ある程度、議論していただく素地ができましたら、皆様にお示しをして、これはもっとうこうじゃないか等のご意見を頂いて進めていければと思います。

【委員】

ありがとうございます。参加する立場としては、もうちょっと情報をいただければと思います。

【町長】

こういう議論をしていってもいいか。というところのお尋ねだと思っていただければ。

【委員】

わかりました。

【委員】

昨年度から、公民館が町長部局に移って公民館の活動ということ、まちづくりの視点から始められたということですが、実質的にはそんなに中身がゴロっと変わるということではないと思うんです。それとは別で、社会教育課の事業として社会教育の視点でいろんな事業をやっているということがあって、選択肢が町民の方にとっては増えて、それがいいことなのではないかなと私は思っています。先ほど教育長さんからもありましたが、高齢の方が増えて、しかも、まだまだ元気な方が増えていて、いろんな活動をされる方も多いと思いますので、そういう方に対して、町長部局は、まちづくりの視点からこういう事業、教育委員会部局は社会教育の視点でこういう事業と、違う角度から、それぞれ出していけると、その方にとってはよりメリットがあるのではないかと思います。今の社会教育課で抱えているものを町長部局に移すということになると、結局2方向で発信していたものが、1方向で集約されてばらばらになってしまうとそれは寂しいかなと感じています。公民館祭りに参加しましたが内容は変わっていませんが、運営主体が変わっているという違いは若干感じました。それはそれでいいので、いいところを、これからの整備で今の体制を受けながら、よりそれを伸ばすのがいいのではないかと思います。

【町長】

おっしゃっていただいたように、もう丸々移しましょうとか、そうじゃないとかいう話じゃなくて、それぞれメリット、デメリットがあると思いますけれども、これは町長部局で取り扱ったほうがいいじゃないかとか、これは教育委員会で取り扱ったほうがいいじゃないか、ある意味、事務分担の話ですが、町長部局に移ったら教育委員会は何もしないということではなく連携は取っていく。教育委員会の生涯教育、スポーツ振興、文化活動をもっと町長部局と連携してやればいいじゃないかと言われると苦しいところもありますが、先ほど具体例として高齢者の取り組みの話がありましたが、社会教育の分野から高齢者を含めた社会教育という範疇で様々な取組をやっておられます。町長部局で扱っている高齢者福祉という視点から、高齢者の健康づくりや介護予防の視点で取り組みがされています。もう少し何かやりたい時に、生きがい作りの生涯教育、生涯学習の視点を、介護予防や健康づくり、健康づくりスポーツの視点の広がりが出てくると、住民の皆さんにとってはメリットの多い事業が増えてくると思います。今、こういう事務を町長部局にもっていったほうが、もっと連携が進むのではないかというものは少なからずあります。その時に、全く教育委員会から外してしまうのではなく、大枠としての社会教育や、大枠としての生涯学習は残してというように、いろんな議論があると思いますので、そこはいろいろ議論を進めて、メリット、デメリットを皆さんと議論して、一つの大山町としての道をつくっていく。そういう形になるのではないかと思います。

【委員】

最後に具体例として、今、襄陽郡と交流していますが、襄陽郡との交流は町と郡でやっています。襄陽郡の中学生との交流の窓口は社会教育課で、国際交流協会の事務局も社会教育課でやっています。交流事業は町の交流なので、町長部局に移したほうがいいのではないかなというような話。これからそういう具体例を挙げて、いろいろ選別しながら、より良い方向に進めていけたらと思います。

【町長】

国際交流なども含めて、ここには具体的には載ってないですが、社会教育課が持っているが、どの部局で持ったらいいのか、そういうところは広く議論していくべきだと思っています。過去の経緯からしますと、国際交流の大人の交流は町長部局で、中学生の派遣は幼児・学校教育課でというのがあって、当時の教育委員会側からの提案で、教育委員会のほうが調整しやすいのというお話がきっかけで今の形になっていますが、交流としては自治体同士の交流なので、窓口は教育委員会かもしれませんが、交流事業があるときには私も出ていきます。町を挙げてやっているということで、国際交流を例

にしますと、窓口と実際の事務をするところがイコールじゃなくても、事業としては動かせると思いますが、同じにしたほうがいいわけがあるといった議論は当然出てくると思います。例えば、国際交流の、最初の窓口だけは町長部局でもって、子どもの交流は町長部局で調整するのは大変なので、そこは教育委員会と手分けしてやっていきますとか、教育委員会でやっていただきますとか、1番最初に受けるところと実際の事務をするところは必ずしもイコールではない。国際交流に限らず、必ずしもイコールではないので、そこは議論していく中で精査されていくのかなと。情報提供ですが、以前から鳥取県は県を挙げて台湾と交流されていて協定を結ばれてから6年目です。大山町も大山町と同規模ぐらいの台湾の自治体から、子ども達の交流団を受け入れてくれないかという打診がきています。どういうふうにしていくのかというところを、教育委員会とまちづくり課と相談をしながら進めていくところでありますけれども、国際交流も、やれば当然仕事が増えてきます。それをどういうふうに取り扱って、どういうふうに事業を進めていくかというところは、議論の中でポイントになってくると思います。新たに始まるかどうかは、わかりませんが、新たに話が出ているアメリカと韓国以外の台湾、あとは既に民間の交流が進んでいるハワイ。昨年度から派遣しているハワイですとか、そういうところも、在り方をどうしていくかというところも、この議論の中で少し入れ込みながら話ができるのではないかと考えているところです。

【委員】

町長部局っていうのは、スタッフはどのくらいですか。

【町長】

正職員の数は150人くらいです。

【委員】

総務課の中で兼ねてやっていますか。

【町長】

組織全体からしますと、1番大きい部局としては町長部局です。教育委員会、議会事務局、農業委員会は別の組織ですので、そこに所属している職員以外は、大体、町長部局の職員だと思っていただいたら。

【委員】

総合戦略課は町長部局ですか。

【町長】

町長部局です。

【委員】

町長部局はいろいろなことを幅広くやっておられるんですね。

【町長】

何か違うかという、町長部局の最終的な意思決定者は私になりますし、教育委員会だと教育委員の皆さんの合否が最終意思決定になります。最終的に意思決定をする機能が違うということです。

【委員】

まちづくり課はどこになりますか。

【町長】

町長部局です。それらの課を総称して町長部局と表現しています。皆さんがわかっている前提で話すようなことがあれば、どんどん聞いてください。

【委員】

町報に載っている組織図に載っていますか。

【町長】

はっきり載っています。

【委員】

以前は載っていなかったような。

【町長】

町長部局という言葉は出てこないかもしれませんが、教育委員会と議会事務局と農業委員会以外の部分を総称して町長部局です。

【教育長】

ありがとうございました。今日は、吉尾副町長に来ていただいております、今までの意見交換を聞かれてご意見をいただけたらと思います。

【副町長】

私が、感じているのは、外からいろいろな話があつて、これはどこの仕事みたいなこ

とが非常に多いです。その時に、組織って何課、何課ってつくと縦割りになります。それは自分の守備範囲をしっかりとやろうという裏返しだと思いますけれど、新しい話からはまるどころがない事業があり、そういった時に、まちづくり課のような広い名前になりがちですが、仕事が増えても人が増えるわけではないので、どういうやり方をしたら効率がいいのか。それぞれの課で同じようなことをやっているじゃないかと整理したくなる時もありますが、先ほど、お話があったように、それぞれの視点からやることに意味がある。そういったことが多々あるので、1度に全体を見直すのは、なかなか難しいですが、今回、町長からありましたように、生涯学習、スポーツ、文化活動、国際交流の1番いいやり方はどうなのかを、今まで仕切りがあったけれど現実を見ながら考えていく時に、今、きているのかなと町長と話をしています。それによつては、組織は変えないといけないところは変えないといけないし、皆の認識を変えるところは変えていけないといけないのかなということです。一つ一つやっていくと神は細部に宿るといい、揉めたりしますが、その辺までしっかり議論をして、その結果、良い事業ができる。町で良いことができるというふうに、特に、今回のこの分野についてできればと思っています。そういうことでご理解を頂けたらありがたいです。

【教育長】

はい、ありがとうございます。今まで、でてきたご意見をまとめますと、町長部局で事業を持つのか、教育委員会で持つとか、その辺りは、これからの議論の中で、メリット、デメリットをしっかりと議論しながら、また、視点をそれぞれ変えて、一つの目標、例えば、スポーツ振興であっても、それぞれの課とか部署で視点を変えて、共同的に町全体の取組として行っていくということで、各課の強みというものがあると思いますが、教育委員会の強みがあり、また、こども課、まちづくり課、それぞれの強みを生かしながら、一つの課が単独で進めるのではなく、縦割りではなく、それぞれの強みを生かしながら、共同的にやっていくんだというような意見も頂きました。もう残り10分しかありませんが、教育委員さんのほうから何かありましたらお願いします。

【委員】

現在は、公民館は社会教育の管轄ですか。

【委員】

今は、まちづくり課の管轄です。

【教育長】

以前は教育委員会の管轄でしたが、まちづくり課の管轄になりました。

【委員】

社会教育の会議になると各館長さんが来て今年度の方針を述べられていましたが、なくなりましたか？

【教育長】

六長会議のことですか？

【まちづくり課長】

社会教育委員さんの会の事だと思います。

【委員】

それで、公民館長さんは任期みたいなものがあって、次の方はどうやって決められますか？今の公民館長は民間からの方と、役場を退職された方になっておられる。昔は、大山公民館は学識経験者のな方になっておられました。町民の皆さんが、今度の館長さんどうやって決まったみたいな話も聞かれるので、あんまり透明な感じがしない。

【教育長】

特に任期というものは、いつまでというものは無いと把握しています。館長さんがどういう方ではないといけないという決まりもなく、辞められたら次の方を探して、ふさわしい方をお願いします。

【まちづくり課長】

募集は公募をかけています。会計年度任用職員ということで、昨年度も、いろいろな会計年度任用職員さんを募集するときに一緒に町報でお知らせしています。

【委員】

公民館は、広く町民が使うところなので、広く町民にもっと門戸を開かれたほうが、雰囲気がいいかなと。また役場の職員を辞めた人かみたいな感じのイメージもありますが、中のことを分かっておられるのは分かりますが、何か利用者が一緒に作り上げていきましょうみたいな昔はイメージでしたが、今はそんな感じがしないので。半日の勤務ですし、イベントも公民館主催もあるので、何かもっと町民の皆さんの声を取り入れたらという声もあります。

【教育長】

確かに公民館は社会教育の拠点ですので、1番中心的な部分を担う地域の皆さんをつなぐ大きな部分がありますので、その辺りの公民館の在り方等にも、また御意見を頂け

たらと思います。

【町長】

皆様から頂きました御意見をもとにしながら、議論をしなくてもいいというようなお話はなかったと思いますので、引き続き内部でしっかり議論をしながら皆さんに、お諮りをして、この大山町の役場、教育委員会、そういったところの組織の在り方、事業の持ち方、最適な答えが出せるように、1年かけて議論を深められるというふうに思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【教育長】

ありがとうございました。では、今後こういった意見交換、議論を進めていくということで、今後もよろしくお願いいたします。以上で第1回大山町総合教育会議頂きます。どうもありがとうございました。